

通夜 表白

敬つて

大慈大悲の阿弥陀如来の尊前に

白して言さく

本日ここに

恭しく仏前を莊嚴し

懇ろに聖教を読誦して

月 日 歳をもって

浄土往生の素懐を遂げられし

法名 釈 の

通夜の勤行を修し奉る

つらつら 惟れば

人のいのちのはかなきこと

陽炎の如く

一生の速やかに過ぎ去ること

稲妻の如し

老少不定なれば

死は時を選ばず

会者定離なれば

愛別離苦は避けるすべもなし

然れば 古き人も

老少不定のさかひなれば

盛りなる人も おほく逝く

生者必滅のことはうなれば

老いぬる人は まして止まらず

かかる無情の悲しみは

浄土にあらずは逃れ難く

この有待のすがたは

生死を離れずは いかでか改めんと

いえり

ここをもつて

蓮如上人は

ただねがふべきは極楽浄土

ただたのむべきは弥陀如来

これによりて信心決定して

ねんぶつもう
念仏申すべきなり と

すす
勧め給う

ねが
希わくは

さんじゆう どうそく
ここに参集の道俗

ふか こじん しの
深く故人を偲びつつ 香華を捧げ

こんじよう ほんがん あお
今生には 如来の本願を仰いで 念仏し

とうらい じようど らく
当来には 浄土の樂をともにせんことを

寺 釈

うやま もう
敬って言す